

No. 06 四季のおたより 【歴史に思いを馳せながら紅葉を楽しんでみませんか】



う だるような暑さも収まりつつあり、今年も紅葉が美しい季節まであと少しとなりました。今回は秋の風物詩である紅葉狩りの由来をご紹介します。紅葉狩りの由来は、古代の日本に遡ります。平安時代の貴族たちは、紅葉の美しさを楽しむために山や庭園へ出かけ、詩や歌、雅楽の演奏を楽しんでいました。また、自然との調和を重視する仏教の影響もあり、寺社の境内での紅葉狩りが宗教的な要素とも結びつきました。江戸時代には庶民の間でも広がり、公園や庭園での楽しみとして根付きました。現代でも、紅葉狩りは日本の秋の風物詩として受け継がれ、美しい紅葉を楽しむために多くの人々が名所を訪れます。紅葉狩りは、日本人の自然を愛する心、季節の移ろいへの感謝の気持ちを表す文化の結晶であり、その伝統は今も大切にされているのです。ここ浜松市浜北区でも、浜北森林公園でイロハモミジやモミジバフウなどの美しい紅葉を楽しむことができます。日常生活のあわただしさを忘れ、紅葉に囲まれて自然との一体感を感じてみてはいかがでしょうか。

No. 07 新原今昔さんぽ Episode.5 【新原への思いが生んだ「ごいぞう穴伝説」】

近所探訪記に登場した「ごいぞう穴」のごいぞうとは、「五猪蔵」という名の男性のことです。私欲の為に村を追出された五猪蔵の物語についてこちらでご紹介しましょう。

★

昔、新原村に五猪蔵という変わり者の男が住んでいました。新原村は、水が引けず、米が育たないので、村人は近隣の村から米を買っていました。しかし、二年続いた干ばつで、米はほとんど収穫できず、飢饉の状態が続いていました。そんな時、欲張りの五猪蔵は、米が足りなくなると予測し、米があると聞くと、出かけて行って買い占め、村人が買いに行った時にはすでに残っていませんでした。不審に思った村人が米屋に問いただすと、どの米屋も五猪蔵の名前をあげました。怒った村人は集まって、五猪蔵をどうするか話し合い、とうとう五猪蔵を村から追放することにしました。五猪蔵は、

泣く泣く新原村を出ましたが、長年住み慣れた新原村が大変恋しかったので、御馬ヶ池のそばの於呂神社の宮司に相談しました。五猪蔵は、於呂神社の下働きをしながら、自分の行いを悔い改め、どのように罪滅ぼしをしたらよいか考えました。ある日、御馬ヶ池で水くみをしているとき、その豊かな水を見て、五猪蔵はふと思いました。「ふるさとの新原村は、水を引ければ稲作ができるようになり、豊かな村になるにちがいない」。そこで、御馬ヶ池から新原まで、水道を掘り、水を送ろうと五猪蔵は考えたのです。次の日から、五猪蔵は新原村に戻りたい一心で、朝から晩まですきとくわで穴を掘り始めました。やがて、五年、十年と時が経っても五猪蔵は、まだ穴を掘っていません。その姿は痩せ、体中傷だらけでした。心配した宮司が休むよう忠告しても、五猪蔵は「あと少し」と言って聞きません。ある日、帰ってこない五猪蔵に胸騒ぎを覚えた宮司が御馬ヶ池へ来てみると、そ

こにはくわを抱えて息絶えている五猪蔵の姿がありました。五猪蔵は目的を達成できませんでしたが、新原の人々は五猪蔵の熱い思いを知り、「所払い」の制裁を解いて、手厚く葬ったとのこと。御馬ヶ池に、今も「ごいぞう穴」といわれる五猪蔵が掘った跡が残っています。長年の風雨でほとんど崩れて当時の様子を伺い知ることはできませんが、五猪蔵のふるさと新原村への熱い思いが偲ばれる場所です。



No. 01 編集長オオツカのご近所探訪記 file#07

遠州山辺の道の会
住所：浜松市浜北区中瀬 95114
電話：090-3879-4200
酒出 明敏さん

遠州山辺の道の会の発足当時より、会の活動に参加されて、現在は事務局長兼ボランティアガイドとして精力的に活動されています。

浜北地域の文化財を活用することで、まちの活性化をめざしています。



昔の地図で新原を説明してもらいました！

大塚：今号は「遠州山辺の道の会」でボランティアガイド兼事務局長を務められている酒出さんにお越しいただきました。早速ですが、「遠州山辺の道の会」とはどのような会でしょうか？
酒出：「遠州山辺の道の会」は、浜北区内の文化財を散策するウォーキングの企画・実施や散策道の道標の作成を行っているボランティア団体です。
大塚：会の活動目的は、浜北区内の歴史を研究するためですか？
酒出：いえ、活動の目的は「地域にある文化財を活用して、その地域を活性化させる」ことです。私は観光として捉えています。
大塚：では、別の地域の方々を対象とした活動なのですね。
酒出：主にはそうです。ただ、私よりも上の世代の方々、その土地の歴史を知っている方に参加していただ

くことが重要です。
大塚：どうしてですか？
酒出：それは、歴史を語り継いでいくためです。私たちも、地域の文化財や変遷を調べることで、その地域に詳しくなりますが、それも限界があります。より深くその地域を知るためには、その土地で生まれて生活してこられた方々の生の声が必要不可欠です。
大塚：語り部が必要ということですね。
酒出：その通りです。上の世代の方々が聞き出し、体験したことをお話しいただいて、参加者や私たちが次の世代へ紡いでいくことが大切です。なので、是非とも地元の方にも参加していただき、主体となって地域の活性化にご協力いただきたいと考えています。
大塚：強い情熱を持って活動をされているのがとても伝わります。最後に、私たちの会社があるのは新原地



区になるのですが、新原地区にまつわるようなお話があればご紹介ください。
酒出：新原ですと「五猪蔵穴」という民話があります。今度、会の活動で浜北の民話を集めた本を出版するのですが、そちらにも「五猪蔵穴」を掲載する予定です。
大塚：「五猪蔵穴」のお話を、一足早く「新原今昔散歩」のコーナーでご紹介させていただいてもよろしいですか？
酒出：是非、お願いいたします。郷土の歴史をこれからの世代へ語り継ぐため、「遠州山辺の道の会」では会員の方を絶賛募集中です。ご興味のある方は酒出までご連絡ください。



天星製油の最新のニュースをお届けします！



編集長
オオツカ



ぼくらはさんばい探偵団！

静 岡県産業廃棄物協会が主催の「ぼくらはさんばい探偵団（親子見学会）」が弊社へやって来ました。普段の生活の中では全く関わる事のない「廃油」や「産業廃棄物」を実際にご覧いただき、廃油のリサイクルや、産業廃棄物の処理とはどのようなことをしているのかを学んでいただきました。また、**廃油水の処理を体験してもらう実験コーナーでは、お子さんのみならず親御さんも楽しみながら実験へ参加していただくなど、非常に実りある見学会を実施することが出来ました。**今後も、天星マガジン以外にも、様々な場で当社の事業内容や取り組みを発信して参ります。工場見学も随時、実施しておりますので、ご興味のある方は気軽にご相談ください。



産業廃棄物 処理法の講演

当 社では、年に1度、産業廃棄物処理法に関する法改正についての講習会を全社員で受けています。今回は、元浜松市産業廃棄物対策課長で環境コンサルタントの鎌田さんに、講演を行っていただきました。講演では、産廃法の基礎的な内容や、当社の事業にも直結する実践的な内容をお話いただきました。講演後の質疑応答では、日々の仕事をする中で浮かんだ疑問について質問が多く寄せられ、今後の業務に活かしていけると感じました。今回、改めて産業廃棄物処理法を体系的に学びなおしたことで、社員全員がより一層法律への理解を深めることが出来ました。今後も、法令に関する講習会を開催することで、コンプライアンス遵守に努めて参ります。



大石 洋一
営業1課

Q お仕事内容は？
タンクローリーで廃油の集荷業務を行っています。浜北区全域と愛知県東部が担当のエリアです。以前は、同部署の集荷運転手のサポートでしたので、その頃よりは担当範囲は狭まりました。



徳増 桂一
営業2課

Q お仕事内容は？
タンクローリーで廃油や液体産廃の集荷業務を行っています。駿東郡小山町から裾野や沼津、富士のお客様を担当させていただいています。入社当初から静岡県東部、伊豆方面を担当していました。

Q 最近のトピックスは？
船でのイカ釣りで2回続けて「竿頭」になったことです。ちなみに、船の中で最も釣果が多い人のことを竿頭と呼んでいます。イカ釣りは月に1、2回程度行っているのですが、連続して60杯も釣れるのはなかなかないので、とても嬉しかったです。

Q これからの抱負をお願いします！
二つ目標があります。一つ目は10kg 超えのカンパチを釣ること、もう一つはイカ釣りで100杯以上釣ることです。大きな獲物を釣るのは釣り人のロマンなので、いずれは大きな獲物を釣りたいと思っています。イカは大きさというよりもたくさん釣れる方が楽しいので、一度でいいので100杯超えの爆釣を体験してみたいです。そんな目標を掲げながら、これからも日本海に繰り出して釣りライフを楽しんでいきます！

Q 最近のトピックスは？
やはりマラソンですね。7年以上前になりますが、始めはダイエットの為に始めたマラソンが、今や私の趣味となりました。最近は社内でも、運動の為に走る人も増えてきて、仕事が終わった後や休みの日に一緒に走ることも増えてきました。1人で走るのも頭の整理になるので良いのですが、話をしながら複数人で走るのも、とても楽しいです。

Q これからの抱負をお願いします！
2月～3月に開催されるフルマラソンを3時間以内で走破することです。初めて参加したフルマラソンは4時間15分かかり、今年の2月に参加したときは3時間8分にまで縮めることが出来ました。できれば、今年の2月に3時間を切ろうと頑張ってきたのですが、それは叶わなかったのが、来年こそは絶対に3時間を切れるよう、練習に励んでいきます。

前 回に引き続き、産業廃水の1つ「廃油水」の処理についてご紹介していきます。前工程のpH調整によって廃油水の中から油を取り除きましたが、まだ全ての油を取り除けたわけではありません。廃油水を無害な状態にするためには、油を全て取り除かなければならないので、**次工程の「蒸発濃縮」処理にて油と水を分離させていきます。**蒸発濃縮処理で行っているのは蒸留操作

です。まず、蒸留塔と呼ばれる缶の中に廃油水を投入して加熱していきます。加熱していくと液中の水分が沸騰し、気化して蒸気になるので、この蒸気を蒸留塔の上部より回収していきます。この操作を続けることで、廃油水内の水分は蒸発していき、蒸留塔内には油のみが残ります。これが蒸発濃縮処理です。ここまでは一般的な蒸留操作ですが、天星製油のスゴ技は、**廃油水1ℓを処理するエネルギーで、倍の2ℓの廃**

油水を処理できることです。それを可能としているのが、蒸気の有効活用です。蒸留された蒸気をそのまま冷やして水に戻すのではなく、後段の蒸留塔内の廃油水を温めるために用います。**つまり蒸留エネルギーの再利用です。**前段の蒸留塔ではボイラーで精製した蒸気を使用していますが、後段は使用しなくて済むため、「省エネ運転」を可能としているのです。これが、天星製油の廃油水処理のスゴ技です。



蒸発濃縮装置



蒸留水(左)と濃縮水(右)

今 日より、環境測定の結果以外に、社員への教育訓練の実績についても本コーナーで紹介いたします。また、前号には環境測定の結果を掲載しておりませんでしたので、本号にてご報告いたします。

Key Word

☑ KYT・交通安全訓練（7月）
運転時の様々なシチュエーションでのKY訓練を実施しました。

☑ 法改正講習（7月）
産業廃棄物処理法に関する講習を実施しました。

項目	放流水	排ガス
	生活環境項目	
実施日	(2023.3~8)	(2023.6)
測定結果	○	○